

1.事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

木材振興室長 大國 敏彦

電話番号

0852-22-5156

事務事業の名称	木質バイオマス資源の利用促進（林業・木材産業成長基盤づくり事業）	
目的	(1) 対象	市町村など（木質バイオマスを利用したエネルギーの利用者）
	(2) 意図	木質バイオマスボイラーの導入支援を通じて燃料である木質バイオマスの需要を拡大し、木材に新たな価値をつけることで林業・木材産業を活性化する。
事業概要	木質バイオマス利用機器の導入を促進するため、市町村等が行う施設整備に対して助成金を交付する。	

2.成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 木質バイオマス利用機器の導入台数（累計）	目標値		20.0	21.0	22.0	24.0	台
		取組目標値						
	式・定義 島根県調査（木質バイオマスボイラーの機器導入台数）	実績値		19.0				%
		達成率		-	-	-	-	
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						%
		達成率		-	-	-	-	

3.事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	46,388	48,546
うち一般財源 (千円)	0	0

4.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5.評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

木材乾燥機や温浴施設等への木質バイオマスボイラーの導入が着実に進んでいる。
H27年度、3箇所の温浴施設等で熱利用ボイラーを導入（累計19箇所）

6.成果があったこと（改善されたこと）

熱利用ボイラーの導入を本格的に検討する市町村が増えている。

7.まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
施設整備が優先され、木質バイオマスの供給計画が十分に精査されない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
原木生産や木質バイオマス供給に対する認識が不十分なため。
- ③原因を解消するための「課題」
燃料用原木は一般の原木生産（製材・合板・製紙用）に伴い発生するので、地域の原木生産の状況を十分に把握し、木質バイオマスの利用計画を作成すること。

8.今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

市町村等が地域の原木生産の状況を把握したうえで、木質バイオマスの利用計画を作成するよう指導・助言を行う。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）